



viva
IMAKITA!



【学校 HP の QR コード】

あけましておめでとうございます。

12/26、「良いお年を！」と子どもたちを見送りました。1/7は、年始の挨拶とともに、たくさんの笑顔に出会うことができました。楽しかった家族団らんの時間を想像し、私も温かい気持ちになりました。(感謝)



イラスト:上ノ瀬先生

ザ・ロイヤルファミリー

校長 渡邊正博

年末に少し体調を崩し、しばらく家族とは別々に過ごす、足を止めるような時間がありました。一人の部屋では、スマートフォンと数冊の本、お菓子と珈琲と時々梅こんぶ茶がお供でした。その間に、ネット配信チャンネルで「ザ・ロイヤルファミリー」(昨年10月から12月にかけてテレビ放送)というドラマのタイトルに出会いました。ご存じの方も多いかと思います。

王族の物語ではなく、競走馬に夢を託した大人たちの二十年を描いた作品でした。話題作とのことですぐに、競馬には興味がなく、放送時にはチャンネルも合わせませんでした。でも、次の干支が午であり、私自身が丙午生まれということもあったからか、自然と興味が湧き、観ることにしました。物語の中で、馬主(佐藤浩市)が主人公(妻夫木聰)に語る場面がありました。

「俺は馬のことはわからない。でも、その馬を育てた人、その人の背景を俺は信じる。」

その言葉が静かに胸に残りました。人を理解しようとする姿勢や、背景ごと受け止めようとするまなざしは、教育の現場(子育て)にも通じるものがあります。気がつけば、倍速の“タイパ視聴”で最終回まで一気に観ていました。何度も涙が出ました。夢や挫折、家族や仲間のつながり——それらは、人が前に進むときの力になるものだと感じました。

「ロイヤルファミリー」という言葉には、“特別な存在”“大切にされる存在”“つながりで支え合う存在”といった意味があるそうです。私が惹かれたのは、「互いを大切にし、支え合う存在」という部分でした。

今渡北小学校では、約1000人の子どもたちと教職員が生活し、保護者や多くの地域の皆さまが関わっています。立場は違っても、子どもたちの成長を願う気持ちは同じ方向を向いています。その意味で、この学校に関わるすべての人を、“ロイヤルファミリー”と感じられるような関係性を育てていきたい。皆さんはどう思うかな？そのためには…と考えながら新年を迎えるました。

子どもたちは、それぞれの歩幅で前に進んでいます。どうか今年も、大人の皆さまがそっと寄り添い、子どもたちに伴走していただければ心強いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

今年も合い言葉は「Viva！いまきた」です。うれしい！楽しい！大好き！を増やしましょう！なお、本から受け取った小さな気づきについては、また別の機会にお伝えできればと思います。